

## 九州まちづくり提案

### アートのあるまちづくり

まちを人肌のもの、人の息吹の感じられるものとするのにアートのあるまちづくりが考えられる。マンション、高層団地、道路、電柱、歩道橋などコンクリートと鉄ばかりがまちに目立つ。たまに緑があるよと言っても都市部では焼け石に水の感がする。

では、アートとは一体なんだろう。著名人の彫刻作品などをまち中に設置することではない。人工物をできるだけそのように見せない工夫である。だからと言って覆いをしてしまうことではない。描いてそれと感じさせるのを薄める工夫である。どうすればいいのだろう。

例えば、急傾斜地に築かれる巨大なコンクリート擁壁なら、そこにグリーンを基調にして県や市町認定の鳥や花を大きく描いてはどうだろう。歩道橋や川の橋、道路や鉄道の高架橋でも同じだ。絵はそれほど大きくなくてもよい。県営や市町営の住宅団地ならコンクリートのままの左右の壁に同じく認定の鳥や花を大きく描くことである。そのほか、公営鉄道やバスのボディにも同様である。郷土への認識が高まる効果がある。

また列車やバスの中には乗り物内展覧会として夏季限定で児童生徒の絵画を順次飾るっていうのはどうだろう。民営のものにも協力してもらおうようにすれば言うことない。

アートといっても費用が掛かるよ、という声があれば、公営のものなら「アートの1パーセントシステム」と名付け、年限を区切り新設のも、効果的なものだけに1パーセントの予算を上乗せして実施する形でやってみることである。民営なら趣旨に賛同し認定の鳥や花でないものでやってもらってもよい。その場合、県や市町が「アートのあるまちづくり」を進める憲章や指針を作成しておけばより促進されると考える。